

第4回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2022（令和4）年9月2日

場所：宇美町役場2階大会議室

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議題
 - (1) 前期実践計画素案
 - ①基本目標 1
 - ②基本目標 2
 - ③基本目標 3
4. 閉 会

1. ～2. 割愛

3. 議題

- P. 4で一番気になるというところは、せっかく子育て支援センターというものをつくりそこに子育て支援の政策を重点化していくということが図られてきた。ただ、この施設については築28年が経過したうえで、今後44ページの関連があるが施設の集約化や改修事業、こういったものが必要になってくると思っている。その改修にあたっての方策や指針というのはこの中で触れられていない。ある程度そういったところをきちんとこの総合計画の中で指針を示しておかないと、この改修計画辺りも進んでいかないのではないかとと思っている。以前厚生文教常任委員会で京都に子育て支援センターの視察に行ったことがある。素晴らしい施設で、京都の時は子育て関連の図書やあるいは幼児向けの本などが非常に充実した図書館の分館のような施設があった。ここにも支援情報の発信を積極的に行うということも書いてあるが、改修にあたってはそういった他の優良な子育て支援センター辺りをしっかり視察に行って、そこで扱われている図書や情報の提供、そういったことの充実も図っていかなくてはいけないのではないかと思う。そういったことが全然書かれていない。今後絶対に必要になってくる子育て支援センターのあり方というものの中で示すようなことをぜひ行っていただけたらと思っている。その際には情報発信や図書館の充実などもできたらいい。加えて京都の支援センターには多種多様なボランティア団体がそこに集まって、例えばロビーで毎日5時くらいから紙芝居を行ってくれたりといったことをたくさんしている。そういったところが見えてくるような施策が入ってくればありがたい。（委員）
- ➔ 公共施設の宇美町のあり方について、宇美町は公共施設再配置計画というもので宇美町全体の95の公共施設について様々な今後の40年を見据えた計画を策定している。策定はしているが新型コロナウイルス等様々な社会情勢がこの5年間で変化しているので、今年度から来年度にかけて再

度現状に応じた見直しをするということに今なっている。(事務局)

- 毎年4月1日時点の待機児童については、確かに令和4年度は0を実現できている。ただし、現段階、9月の段階で待機児童がもう発生している。できたら年間を通じて0が実現できるまち、そこが子育て支援の中のやはり肝になってくるのではないかと考えているので、その指標の設定もこれでいいのか。4月1日に実現できていればそれでいいということではなく、年間を通じた待機児童0をどうやって実現していくかという辺りを盛り込んでいただけるとありがたい。確かにこの1番に子育て支援の充実というのが上がってきて、私は素晴らしく評価させていただこうと思っているので、そういったところを考えていただけたらと思う。(委員)
- 重要なご指摘をいただいた。まず確認だが2014年までに公共施設等総合管理計画を作って2020年度中に個別施設の再配置計画を作るように総務省からは言われている。各自治体一応形は作っていて、中身が十分できていないというのはあると思うが、そこは作っているか。(会長)
- 子育ての支援施設についても、当然再配置計画でも重要な部分になってくると思うので、再配置計画については43ページにも記載はしているので、こちらの再配置計画の中で十分に、きちんと議論はさせていただきたいと思っている。(事務局)
- 再配置計画がどういった運びになっていくのかだが、複合化。やはりこれまでの自治体の計画というのは面積が広すぎるので大体3割程度縮減しなさいという目標で老朽化している施設を廃止する方向での検討だったりする。複合化というかたちで横にあったものをくっ付けていくのはとても大事な視点で、その時に保育園と小・中学校は先生方にとってはある種聖域のようなかたちで複合化が嫌がられるケースが多分にあるが、これはやはり長期的に考えていくと組み合わせてやっていくということを考えていくほうがむしろよいのではないかと考えているので、そこはお考えいただければと思う。(会長)
- 指標についてはご指摘のとおりもう少し練ったほうが良いと思われる部分は多くあるので、ご検討お願いできればと思っている。(会長)
- まず指標の部分だが、町民の割合のところ、当事者である園児、小学校も中学校も親がどのように考えているか、感じているかがやはり一番妥当かと思う。恐らく一般的に抽象的にしか捉えていないから、これは実態ではないような気がする。これは私の経験だが、幼稚園のお母さんたちと話したことがあり、一番欲しいのはお友達と言われた。幼稚園の保護者を対象にいろいろヒアリングをしてやった中で一番喜ばれるのは、友達を作る機会ができたと言われた。だからそういった内容で、今子育て支援センターもこどもみらい課も学校教育課もやっているとは思いますが、子どもに対して個別の親に対してという視点と、あとは親相互のネットワークを作る。小学校でもクレームは心の不安が基盤にある。不安だから学校がやっていることや先生がやっていることを悪く捉えて学校に食いついていく、役場に食いついていくということがあったので、結論は子育て支援として親同士の関わり合い、出会いを増やすということが書いてあったらいいのであろうが、そこも入れてもらえると助かると思った。(委員)
- 結局ここで書いていることが本当に住民のニーズに即しているかどうかということが問われているのではないかと。そういったものが欠けているとすれば、やはり行政側がやらなければいけ

ないことを中心として考えていて、住民が求めているものが何なのか。住民が必要としているものが何なのかという視点がまだ弱いのではないかというご指摘だったのではないかと。同じく行政側がやらなければいけないという発想が強すぎて、むしろ当事者の方々にもっとお任せするとか、そこを強くしていくという視点が弱いのではないかというご指摘かと思う。非常に重要な視点だと思うので、ぜひご参考にいただければと思う（会長）

- 友達が必要だというのは本当に当事者のニーズだと思う。今妊娠している娘がいるが、以前だと産婦人科にいた時に隣になっている人に何箇月ですかと声をかけて会話ができていたが、今はコロナ禍で隣の人と話せない。ママ友の前の友達を作るのも至難の業だと感じている。妊娠期は特に不安があると厳しいので、妊娠期からの切れ目のない支援のところで助産師や産婦人科などいろいろなところの連携を強化していく必要があるのではないかと。そして相談体制や友達を作りやすいアプローチ、講座など、産婦人科でもマタニティクラスなどの実施ができていないと聞いているので、そういったところもまたアプローチをいろいろな政策で考えていかないといけないかと思っている。（副会長）
- P. 5 学校教育の充実で、2 番目の豊かな心、健やかな体の育成の現状と課題のところでききなりアンケートの話が出てきているが、現状で豊かな心健やかな体の育成をするために今このようなことをしているということを書いたほうがいいのではないかと。アンケートなどは取り組みをしてそのあとにあるもので、いじめありきなどといったかたちではなく豊かな心と健やかな体の育成のためにこういう体験活動などを行っている。そしてこうしていきたいといった、行動のほうの今やっていることを入れてもいいのかと思った（副会長）
- 妊娠期の不安など、総合計画を作るにあたっていろいろアンケートやワークショップをしていたが十分活かしきれっていないのではないかとご指摘ではないかという気がした。やはり市民側のニーズの観点から触れていくことを考えていく。今自治体がやっていることということから積み上げていくというよりは、ニーズや目標から考えていくという思考パターンをもう少しやっていただければと思う。言い換えると、ここで挙げられている子育てと学びをみんなで応援するまち、これは一体具体的にどういう状況が実現できればこのまちが出来上がるのか。そのためには、子育てと学びをみんなで応援するまちというものをもう少し具体化していかなければいけない。そのうえで、それを元にいろいろな目標があって、その目標は理想と現実とのギャップである。理想が描けないと現実とのギャップを把握できない。その理想と現実のギャップを解消できれば、あるべき目標が実現できるはずである。このあるべき理想と宇美町の現状とのギャップを解消するために施策を打っていく。そのあるべき姿は市民のニーズ、住民のニーズというものがきちんと入っていなければいけない。基本目標はこれでいいとしても、それをもう少し具体化していった時の中身がどうもニーズとまだずれている部分があるのではないかとご指摘なのではないかという気がした。

例えばヤングケアラー問題といった問題は全然入ってきていない。やはりそこから見ても、これまでの施策を積み上げたかたちで 1-1 から 1-5 まで組まれているのではないかとご指摘なのではないかという気がするが、そうではなくあるべき姿と現実とのギャップを書く。基本目標の下にさらに細かい小さな目標、あるべき姿を描いたうえで施策を位置付けていく。

作りとして少し疑問なのは、指標が上がっているが指標は何をしますということそれぞれに対

して出ていない。つまり、何をしますというものが特定の誰かについての指標になっていて、こうなってくると総合計画の作りとしてはこれ以外のことはやらなくても指標が関係ないという話になるので、これはちょっとおかしい。例えば今日本全体で進んでいるといわれている岐阜県多治見市の総合計画では、こういった指標は全然入ってこない。なぜならこれは事務事業評価レベルでやっているからである。だからむしろどちらかというと、総合計画の段階ではこんなに細かく書くこともなく、何々をします、何々をしますというのがもっと網羅的に上がってきていて、その下に事務事業がぶらさがってきて、事務事業評価の段階で各個別の事務事業に対して指標をきちんと明確にするという作りのほうがいいのではないかと。ここで恣意的に特定のものだけを取り上げるというのは少しおかしな作りなのではないかという気がしている。(会長)

- 子育てに関しては、リアル世代というかその当事者の世代。現に今子育てをしている方が、その10年なり15年して子どもが大きくなると、自分達もそうだが子育てが終わった感覚でいて、だんだん関心が薄れていく。なので指標としては大体書いてあるとは思いますが、結局リアル世代の要望というかその世代をどう汲み上げるかというところを考えていただけたらと思う。(委員)
- 十分その市民ニーズを踏まえたかたちでの柱立てや指標設定になりきっていないのではないかと。ご指摘かと思う。そこももう1回担当の皆さまにはご検討いただければと思う。(会長)
- 実践計画を読む時の私自身の感想としたら、例えばこれは「宇美町」を隠しておいて読んだ時に志免町でもいいのではないかと、何町でもいいのかというようなことを思いながら読んでいるつもりでいる。これがどこの町にでも共通している、宇美町の特徴が出ているか出ていないかというようなことが、私の基準として町を置き換えたとしても通用するかしらないかと読まない、あまりにもたくさんあり過ぎてどんどん狭い道に入っていくってしまふ私自身がいる。やはり宇美町の現状と何がしたいのか、優先順位が何なのか絶えず考えていく必要があると思う。人に住んでもらいたいということと、これからの世代が大切だということで子育てを一番に持ってきているのは的確な順番だったのではないかと。そのうえで何が優先順位で一番に上がってくるのかをもっと明確にしていく。何もかもし過ぎてしまつてどれも中途半端になってしまうことほど残念なものはないので、この中で何を一番に、少し先かもっと先かを考えて子育てを考えていけたらいいと思った。(委員)
- 非常に重要な、根源的な一番大事なポイントをご指摘いただいたと思っている。この総合計画というのはどこでも同じようなものというのはたくさんある。だからこそ作った後では誰も見ない。そうではなく魂を入れていかなければどうしようもないので、そこはそもそも子育てと学びをみんなで応援する町がいったい何を指すのかということである。

例えば島根県の海士町も今島を丸ごと学校と見なして、そしてキャンパスと見なしてみんなから学んでいこうという取り組みをしている。そこでは地域のいろいろな課題を住民の方と一緒に考えて解決策を講じたり、その中で目指している目標はいったんそこから出て行っていいけれども力を付けてこの地域で仕事を作れる人材を作っていこう。そういう目的が明確になっている。つまり、都会に出てしまふといなくなってしまうから困るのではなく、むしろ出て行っていい。出て行つたうえで、この島根県海士町ではなかなか仕事がないから帰ってこれないと言うがそうではなく仕事を作れるくらいの力量を持って帰ってくる町。そのためにいろいろな学びをしてい

く。例えば不便な町だからこそ学園祭の準備があった時にドン・キホーテがあればテープが足りない時テープを買いに行けばいいが、もうお店は6時に閉まってしまうから、7時以降に準備をするのにテープがない時どうするか。不便性があるからこそここでいろいろ自分で考えて知恵を付けるというように積極的に仕掛けていって、そういう環境で育つからこそたくましく自分の頭で考えられて、いずれいろいろな知識を身に付けて戻ってきて仕事を作れていく。そして海士町という所を盛り上げていく人材を作っていこうと、一貫して教育のコンセプトを作っている。そういうものが個性という。そういったものを感じられるようなものがあつたほうがもっとよいという感じがする。ぜひ政策の1-1から、これがもう少し読んで本当に宇美町だと分かるような内容にしていいただければと思う（会長）

- 保育園のことはある。ところが宇美町の町立の幼稚園がないから、幼稚園との関わりなどがどうなっているだろうかということで、1つ疑問がある。私は中学でも経験があるものだから、教師の働き方改革の中で部活動をどうするかということが非常に上がってきている。そのことについてはこの中にどこにも見あたららないので、その辺りをどこかで挙げるべきではなかろうかと思っている。

子どもそれから保護者の相互の連携は必要になるが、例えばこの付近では春日市のコミュニティスクールは非常に素晴らしい所であると思う。それはやはり春日市の学力などにも非常に影響する。そういったことをもう少し強くどこかに表していただきたいと思う。（委員）

- 春日市のコミュニティスクールの取り組み、一応この計画の中でもコミュニティスクールを推進するという自体は書かれていることは書いているが、やっていきますということだけではやはり物足りない。そこをもう少し、どういうコミュニティスクールにしたいかをもっと明確に書く。

部活動について、もしこのコンセプト、子育てと学びをみんなで応援するまちということで、部活動に関しても地域にお願いしていくような部分の要素が出てきているので、入ってこないのはおかしいのではないかとのご指摘はごもっともである。特に1-4のスポーツ・文化活動の推進というところでそういったことに言及すべきなのではないか。

幼稚園については一応言及がなされていないわけではないが、4ページの2-1、保育施設と小学校の連携のところ町内の保育施設等と小学校との連携を強化しますとなっている。保育施設等の等に書かれてしまっているということで、そこは例えば保育施設・幼稚園と小学校の連携とするかたちで、幼稚園の位置付けというものも明確にしたほうがよいのではないかとご指摘かと思った。（会長）

- 不登校のことにかなり踏み込んで人的支援をきちんと入れていきますというのは素晴らしいことだと思うし、保健体育科の授業改善なども踏み込まれており、その辺りは評価したいと思う。

3-1の学校運営協議会とコミュニティスクールのところに記述がある。確かにコミュニティスクールの活動が宇美町は得意である。活動としてこれもしっかり伸ばしていかなくてはいけないが、それと地域コミュニティとの関係が実はかなりあやふやになっているのではないかという気がしている。地域コミュニティにおいても学校の運動会を地域と一緒に開催していただいたり、子ども達の交通安全、見守り隊活動なども地域コミュニティを中心に展開するとあるが、そうい

ったところが少し分かりづらいのではないか。地域コミュニティの活動、それとコミュニティスクールの活動としっかり分けながら、メンバーはかなり重複しているところがあるが、そういったところをもう少し分かりやすく書いていただくとありがたいと思う。

指標が学力テストで「全国±0」を目標に掲げてあるのがかなり志が低いと思っている。4年前でこの指標が宇美町は平均100として大体80だった。この4年間を見ると20ポイントあるいは18ポイントまで上がってきている。それが5年間経過してプラスマイナス0、これではあまりにも低すぎるのではないか。プラスマイナス0でも福岡都市圏の中では最低レベルである。新宮町辺りは110ポイントに達している。同じ郡内でこれだけの差がある。宇美町はもう少し志を高くして、せめて4年後110ポイントを超えるくらいの目標をしっかりと掲げて、そこに向かって取り組んでいくくらいの意気込みを示していただけたらと思っている。ぜひご検討いただけたらと思う（委員）

- 目標値というのはやはりあるべき姿と現状とのギャップをどう埋めていくか、もちろんそんなに急に非常に高い目標は掲げても仕方がない部分があるが、確かにプラスマイナス0というのはちょっと低いのではないかという感じが、感覚としてはする。

コミュニティスクールという概念はかなり曖昧模糊としていて、ここに書いている学校運営協議会を設けていればコミュニティスクールだという理解もあれば春日市的なかなり本格的なものもあって、まさしくこの中身を詰めるという話だと思う。その辺りでコミュニティスクールと一言で言ってもやはり中身がいろいろあるので、もう少しその地域とともにあるということの実質化をぜひ図っていただければと思う（会長）

- 学校教育関係が、教育委員会に出ているので大体皆さんの動きがよく分かるが、やっていることをもう少し反映させてもいいのかと思う。例えば2番の豊かな心、健やかな体の育成のところだが、将来の自分作りやまちづくりについての活動や目標を立ててやっている。そういったキーワードを入れることで学校教育への意気込みを見せることをもう少ししていいのではないかと思った。

不登校のところは、当たり前であろうが幼小連携で不登校は予防、対応している市町村もある感覚的には中学校で不登校が増えるがほとんどが小学生で兆候を見せている。小学校で兆候を見せている子ども達を見てみると、自発性がないとか情緒不安定とか幼稚園や保育園で兆候がある。だからその辺りをもっとこれからも、今やっているように強化していく。そのためにもこの中に幼小の連携や幼小連携による豊かな心と体作りといったものを入れていいのかと思った。

P. 5~6、4のところ、これはもう皆さんご存じのように小学校も中学も慢性的な人手不足である。どの学校も2人~3人の欠員を抱えて、教頭が入る、教務主任がそこに入ることによって、今度は教頭先生達が病休に入る人が非常に増えてきている。粕屋地区はよそに比べて常勤や非常勤の給与が少ないので、どうしても福岡市や筑紫の春日や大野城市に逃げてしまっている。だから賃金が出せないというか、やはり学校は一生懸命頑張っている学校教育課などとともに頑張っているということをここで匂わせていくのが大事ではないかと思った。

学力テストの結果云々はまた皆さんで考えていただいて、一番大事にしなければいけないことは子どもの幸福度の問題、ウェルビーイングという言葉があるが、日本はユニセフの調査によると58カ国中57位である。一見楽しく学校に行っているような姿を見せているけれども、内面的

には不安や絶望感を抱えているのが今の小中学生ではないかと思うので、その辺りのことをここに書くかどうかは別として、やはり危機的な状況をどう変えるかというようなニュアンスというキーワードをここに入れていかないと、学校教育については先生達にボーナスもあるということで終わるような気がする。公務員の中では学校の教員が一番残業が多いというか、今のままだったらやはりつぶれると思う。(委員)

- 先ほど言及した海士町は初めから学力で勝負したら都会の学校に負けてしまう。だから学力でないところで勝負していこうということで、違う、自分で考えて課題解決ができるようなイメージを作っていた。今の話とずれるが、幸福度という視点をもう少し表に出していくというのは、非常に宇美町らしさでもあり、分からないが学校の先生の立場からした時にこの指標が学力テストの点数といった話だけだと非常に寂しい感じがするのではないか。むしろ子ども達が幸福に感じる、そこが指標としてあったりすると、頑張っていっちゃるのでやりがいという部分でも意味があるのではないかという気がした。その部分をもう一度考えていただけるといいのかと思う。(会長)

- P. 7、1-3、ライフステージに応じた学びの推進というところで、働く婦人の家が宇美町の生涯学習の拠点施設として機能している。これが実は昨年の3月の段階でなくしてしまうということだと、それを阻止しながら現在に至っているわけだが、特に女性の社会進出といったことをしっかり推進していくという意味でも働く婦人の家のことを記述しておかないと駄目ではないか。そのあり方、今までは廃止ということでやっていたのをこれからしっかり続けていきますとしっかり明記するとともに、そこででは何を行うのかといったところが、やはり非常に大事なポイントではないかと思っている。ぜひ加えていただきたい。

2-1、電子書籍充実と利用の促進について検討を深めますという、何をやるのか全然分からないような表記になっていて大変曖昧さを感じる。それに伴って電子書籍の年間貸し出し件数は、今導入2年目で600件しか増えていない。この指標の設定の辺りをもう少しきちんとやるとか、どうせやるなら開館以来ずっと減り続けている図書館の利用者数や図書館の貸し出し冊数など、その辺りを増加に転じるような施策を打ってしっかりと施設を活用していきます、もっと増やしますといったことが見えてくるといいような気がする。この指標の設定ももう少し考えて設定したほうがいいと思う。(委員)

- 検討を深めますといった、これはやはり避けていただければと思う。これはあくまでも計画なので、検討を深めるというのはそのための手段に過ぎないので、もっと具体的に何をするのかということをお書きいただければと思う。(会長)

- 直接的な文言だが、社会福祉協議会という文言、立ち位置が明記されていないように思う。(委員)

- 13ページに入っていることは入っている。(会長)

- ➔ 社会福祉協議会については町ではなく関係機関として、きちんと当然大事な団体、連携機関であるので、13ページの中にも今後お互いに連携を強めて機能強化を図っていくと明記している。

具体的な取り組みの中にも当然地域の身近な相談先ということで重要な部分でもあるので、2-1の取り組みの中でもあくまでも表記は連携となっているが、社会福祉協議会ときちんと連携を

強化するということで名称は挙げさせていただいている。(健康福祉課)

- 東京オリンピック、パラリンピックが開催され、障がい者スポーツに対する国民の意識もかなり高まってきたのではないかと思う。また、共生社会を実現するにあたってスポーツの持つ力というのは非常に大きいと私は思っている。ただ、福岡県の障がい者スポーツ大会には宇美町から1人しか参加していない。以前は町を代表してチームを作ってそういった大会にも参加していたが、今そういったところがほとんど皆無になってきている。たった1人しか参加できていないということもある。そういった障がい者スポーツを普及させることによって共生社会を実現させていくような取り組み、今年共同事業においてスポーツ協会でやっているスポーツ少年団などで1つイベントを企画しているが、そういったものを広げていくことが必要ではないかと思っている。そのような視点からも障がい者の人達にどんどん出て行っていただいて、一緒に活動して共生社会を目指していくというような文言をしっかりと入れていただくことが必要ではないかと思っている。(委員)

- 児童虐待の部分、例えば乳幼児検診の平均で96.1%の残りの人はどういう理由なのかが少し気になった。今育児放棄などには何か見つける機関といったものはどこかで考えているのかどうかお聞きしたい。(委員)
- ➔ 子どもの虐待の件はどちらかというと先ほど終わった3ページ~4ページ、子育て支援の充実のほうになってくる。この中で4ページの1-1 子育てに関する相談体制の強化と関係機関の連携の中で児童虐待の未然防止などで挙げさせていただいている。

この検診などももちろん非常に関係があって、検診はこの項目で言えば予防。起こる前、子どもの体が健康で……どうしても虐待のケースを見てみると、小さく生まれたり育てにくいお子さんである。そういうことができるだけないようにということで妊婦健診や赤ちゃん健診につながってくるので全く関連がないわけではないが、ウエイトとしては子育て支援の充実のところのウエイトで書かせていただいている。(こどもみらい課)
- 受診されていない人の追跡といったことはできるか。(委員)
- ➔ これは全部把握している。病気を持っておられてすでに病院で受診されている方がほとんどである。(こどもみらい課)
- やはり計画であるので何をするのかというのがはっきり分かったほうがよい。例えば13ページの2-1、相談者に寄り添った支援ができるよう庁内関係課および県社会福祉協議会や他職種関係団体等との機能の専門性を生かし、相互に連携性を強めて必要な支援を必要な人にかける体制強化が必要です。必要なのだけれども、体制強化といった場合に何を具体的にどうするのかというのがないと、結局検証のしようもないし頑張りましたということで終わってしまうので、この前期の4年間において何をどう具体的に進めていくのかという、その記述が全般的に弱い気がする。13ページに書いてあるようなことというのは前提条件なので、前提条件の下で具体的に何をどうするのかということをお書きいただきたいという気がする。

普及啓発を行いますや職員研修を行いますとあるが、他でもやっていっちゃると思うので、もしくは現状とあるべき姿のギャップをどう解消していくのかという具体性がもう少しあったほうがいいのではないか。

仕事をしていく中で例えば 14 ページ 2-2 の個別訪問及び民生委員児童委員や自治会、シニアクラブ等への働きかけを引き続き推進し、疾病や生活環境の悪化、社会的孤立などが要因で、相談につながっていないケースの把握に努めます。これはそう努めると思う。そういうことを書くのではなく、むしろやはりあるべき地域包括ケアシステムと今現在の現状とのギャップを見たうえで、その他自治体の先進事例などを踏まえながら何をどう変えていくのか、何をどう充実していくのかということをもう少し具体的に、全般的に書いていただくとありがたいという印象である。

指標は事務局のほうにお願いしたほうがいいかもしれないが、個々の事務事業ごとに指標を設定すべきであって、その中の特定のものだけをピックアップしてここに載せても恣意性が否めない。指標についてはもう少し事務事業レベルで設定して、それを総合化して総合計画の達成度に変えていくなど、事務事業評価レベルときちんと仕分けをしたほうがいいのではないか。(会長)

- P. 15、介護予防と生きがいづくりの推進のところ、高齢者の健康づくり・体力づくりという文言を入れて積極的に高齢者の健康づくり・体力作りをしましょうといったニュアンスに持っていったほうがいいのではないかと思う。私は毎朝粕屋町の駕与丁公園に行って毎日歩いているが、いろいろな年代の方が朝早く、土曜日曜は 1 日中歩いている。あの活気を、宇美町でもあると思うがあのイメージを全ての年代層がイメージしていくと、もっともっと病気は減るし介護についてももっと年齢が上がっていいのではないかと思う。

食育についてももう少し強調するためにも、1、2、3、4、5 を作って行ったらどうかと思う。皆さんご存じのように 2 人に 1 人ががんで死んでいくような世の中である。そのほとんどが食の添加物や農薬である。だから農薬などを入れるといろいろ政治上も差し障りがあるので、食育に力を入れることによって将来にわたって自分の健康を気遣うといった考えは町民に知らせる必要があるのかと思う。食品添加物についても日本は 1,400 種類使っていて 2 位が 400 種類。他の国に比べて食品添加物の量が多いし、また農薬の基準が 400 倍くらい甘い。だからもう少し食育に目を向けていけば、病気が減るし救われる家庭も増えてくるので、宇美町の施策の 1 つとして入れてのいいのではないか。その場合には小・中学校や幼稚園などと組んで幼いころから食育に力を入れます、健康作りに力を入れますといったことを入れていくといいのではないかと思った。(委員)

- 食育という言葉自体は 36 ページの農業のほうに軽く言及はされているが、これをここに書くのであればもっとそういう部分、きちんと食育ということを全面的に出しておいたほうがいいし、むしろそれをするによって宇美町の売りになっていくのではないか。(会長)

- P. 14、指標の中に高齢者等の個別訪問の年間の件数とあるが、これは民生児童委員の活躍が非常に大きいと思うが、現状民生児童委員は 3 年ごとに交代があるがそれを交代される人を探すのが今大変な状況のようである。話を聞くと、民生児童委員の手当が基本的にはボランティアなので交通費だけで年間十何万円かくらいになるという話であった。ボランティアとはいいながら大変な作業をされているので、少し手当を見直して、これは町のほうにご相談したいと考えている。(委員)

- 民生委員の任命権者は厚生労働大臣なので、なかなか町独自に手当を出すということは難しいのかもしれないが別のかたちで処遇のあり方は検討できる可能性があると思うので、ご意見として承っておきたいと思う。その中で確かに民生委員のなり手不足という問題に対してどうやっていくのかということは根本的に考えていかなければいけないということである。(会長)
- P. 14、2-2 シニアクラブのような働きかけを推進しという文言もあるので触れておきたいと思うが、高齢者同士が横でつながりながらお互いを支え合っていくのは非常に重要ではないかと思っている。ただ、宇美町の以前老人クラブ連合会とっていた今のシニアクラブは組織が壊滅寸前に陥っているのではないかと思っている。関連団体が非常に少なくなって活動自体が非常に縮小してしまっている。それぞれの地域では、自治会等では老人クラブ辺りはまだ活動していると思うが、組織として活動していない。全体的な方向性を示したりするには、やはり町の組織、大きな組織をきちんと構築してその中でいろいろな方向性を示していくといったことが大事になってくると思うが、その辺りの支援、また元の老人クラブ連合会といった組織に、しっかりサポートしながら作っていくようなことも少し触れていたほうがいいのではないか。老人クラブがなくなってしまっただけではこれから先連合会がなくなってしまっただけで、これから進めていく施策等を推進していくうえでも支障になるのではないかと思うので、文言的にどのようなことを入れたらいいのかというのはなかなか難しいと思うが、ご検討いただけたらと思っている。(委員)
- 老人クラブが各地で結構消滅気味だというのはあるが、だとすれば発想を変えてもいいと思う。やはり高齢者だけではない、そもそも健やかに暮らせるといった時に高齢者と小さな子どもということしか前提にないが、別にその途中の年代も当然に健やかにしていくべきなので、やはり面白いことが起きているまちというのは若者達がいろいろな新しい面白い動きをして、そこに高齢者達も関わっていく。高齢者達の集まりになってしまうと高齢者、若いと思っている人間はなかなか参加しないので、むしろそういう年齢に関わりなく集まっていけるような集団がたくさんできるようなものが入ってもいいのではないか。(会長)
- 14 ページ、1-1 障害がある方への差別について相談をする障がい者差別解消支援地域協議会を設置しますと具体的に書いてあるが、身体障がい者協議会が昔あったと思うが今はないのか。(委員)
- ➔ 以前は身体障がい者協会はあったが、現在は活動がなくなっている。(健康福祉課)
- P. 18、地域での防災力の強化のところだが、コミュニティ運営協議会と連携しながら防災会議、そのあとに防災訓練という言葉を入れるということと、もう1つは防災意識を防災時の行動の向上を目指しますというような具体的に何をして動くかということを確認視したほうがいいのかと思った。2011年東北大震災があったが、あのあと被災地となった宮城県などに行ったが、学校はほとんど安全な対応ができた。それは学校と地域コミュニティでいざとなったら学校は何をする、地域は何をする、自治会長は何をするということまで決めていたので部外者からの学校へのいろいろな妨害などもなかったし割と無事で済んだということであるが、そういったことがなかった所はやはり地域が全部している。だから宇美町は津波などは来ないが地震はくる。地震が起きました、意識だけが高くても意味がないので、やはり具体的に訓練を定期的に行うなど、

いざいというときに役割分担を決めて即行動できるようなところまで高めておく必要があると思うので、その辺りの文言の挿入が必要かと思う。ハードは整っていると思うのであとはソフトの部分の強化が大事ではないか。(委員)

- 昨年度自治会活動の中で障がい者の避難行動について調査があった。その地域における障がい者やあるいは避難行動に問題がある人のリストを提出した。その時点でこの先ではこの人達をどうやって誰が避難活動に関わるのかという問い掛けをしたが、その先結果としてどうなったのか。

車椅子生活あるいは意思疎通が難しい高齢者、そういった人たちへのリストは無事出したが、その先どう活動に生かされているのか。誰がするのか。一番身近な隣組内での人間が、自由に動ける人間が関わらないと仕方がないが、そこまで話し合いができたのか。計画が進んだのか。(委員)

- 地域の防災力の強化ということで、いつどこで起こるか分からない災害は行政の力だけで対応することはできない。行政の力だけではなく関わる人間も何人かいる。ただ、近日も台風がやってくるが河川の増水について質問したい。

台風はいつでも時間にかかわらずやってくるわけだが、その時に河川の可動堰の管理をしている者として質問したい。役場の職員の方も警戒警報が出た場合には深夜でも役場に勤めて作業に当たると聞いている。私どもも深夜に待機して、電話でのやりとりをするが、その時に取り組みとしてもっと個別的に町の職員はこう対応します。現場対応はわれわれがしますというようなことがはっきり策定されたものが、取り組みとして今後個別的な計画を策定するということが具体的にどうしていくのか質問したい。(委員)

- ➔ 個別避難計画について回答させていただく。今避難行動要支援者名簿を作成している。これは自分で自ら逃げることができない方の名簿ということになる。障害があったり高齢者の方でも家族と一緒に逃げるができるという方もいるし、中には逃げるができないという方もいらっしゃる。その中で自分で逃げるができない方の名簿を作成している。以前からそういう名簿は作ってはいたが、高齢者の状況等は年々変わっていくので今年町が持っている要介護認定を持っている方や障がい者手帳を持っている方等を抽出して一人ひとりに災害が起こった時に避難ができるかどうか、どういう状況なのかをアンケートとしてお配りして今集計をしているところである。集計ができたなら、名簿として作成したら個人情報を開示していいという本人さまの同意が得られた方には地域を始めとした関係機関にも名簿をお渡しするような計画にしている。

ご自分で逃げられないという方については家族と一緒に逃げられるのか、家族が避難行動と一緒にすることができない方については、これは時間がかかると思うが地域の方と一緒に、誰と一緒に避難するのか個別の計画を策定する予定にしている。まずは名簿の作成から着手をしていく。(健康福祉課)

- 名簿の作成と集計は、これは私が出したのは昨年度の話である。集計に少し時間がかかっているかという気がする。それができたとして、何をどうして下さいというような周辺住民に対する周知の方法などは考えているのか(委員)

- ➔ 自治会ごとにこういう方がいらっしゃいますということで名簿をお渡しする予定になっている。(健康福祉課)

- それは昨年度中に出している。(委員)

- **まだわれわれには来ていない。(委員)**
 - ➔ 担当としては危機管理課と健康福祉課がそういったことを今策定しているが、町のほうから昨年名簿を出してほしいというお願いはしていないと記憶している。ひょっとしたら各自治会独自で取り組まないといけないということで積極的に取り組んでいただいているので、去年はそういった中でその名簿を作成し提出したのではないか。(事務局)
- **自治会独自ではなかったと思う。(委員)**
 - ➔ その辺りについてはまたきちんと調べ直して後日回答をさせていただく。
水路の分で農業委員会で大雨の時の堰の管理をしていただいている部分である。行政とどういった形で役割分担をするのが明確にというお話だと思うが、これは総合計画の中にそこまでなかなか書きにくい部分にはなと思うが、当然今のお話は担当課に対応を検討してくださいとお伝えする。(事務局)
- **みんなが寝ている時に行動しているのは評価に値するが、もう少し分かりやすくできないかと、こんな時どうするかをこれを見れば個別に避難計画を策定しますという形になっている。何か意思が通じないような気がする。もっと分かりやすくしていただければと思う (委員)**
- **要望として受け止めていただければと思う (会長)**
- **P. 18、4-1 に機能別消防団のことが書かれている。ただ、機能別消防団員といっても何のこともピンとこない人もいると思うのでぜひ注釈等を入れていただけたらと思う。**
 - P. 20、他の町の消防団の Instagram のページなどもフォローさせていただいているが、女性消防団員がいる。非常に素晴らしい活動をされている。ぜひここで女性消防団員の確保や組織化といったことにもぜひ取り組んでいただけたらと思うが、その辺りをどのように考えているのかということをお聞きしたい。(委員)
 - 指標のところで防災メールや防災情報の登録者数が 3,000 人を目標とされている。これもやり方次第では宇美町に住んでいる方、成人、高校生以上くらいだったらスマホも持っていると思う。もう少し多くの方に防災情報に向けた意識啓発を行っていただいて、アプリを導入したりメールを登録するだけなのでこういったことは簡単に人数を増やせると思う。その辺りはしっかり目標人数辺りも多くやって、具体的にしっかり施策を進めていただいて、何よりも災害時には情報が必要である。そういったところもしっかり進めていただけたらと思っている。
 - 3-2 のところも言及させていただきたいが今高齢者の免許返納が大きな課題になっている。進んでいない。免許証返納をやりたくても家族はもう早く返納してほしいという意見はあってもなかなかそこに踏み切れない。やはり高齢者の免許返納者に対しての支援策というのが少ないのではないか。交通安全等で悲惨な事故などがなくなるようにということを望んでいるのでそういった支援策、こういったことに取り組みますといった書きぶりもあっていいのではないか。
 - 指標のところでこんな指標を入れてはどうかということだが、歩道を設置することはなかなか難しいがグリーンベルトを新たに設置する、宇美小学校近辺だったらゾーン 30 を設置することなども交通安全対策で重要な施策ではないかと思う。指標の中にグリーンベルトの設置箇所数や延長箇所数、できたらとゾーン 30 の設置箇所を 2 箇所くらいなどが上がってくるとありがたい。(委員)

- ここに入ってくるのか分からないが、J アラートの取り扱い、その辺りの取り扱いはここに入ってくるのか。(委員)
- ➔ J アラートというと国が直接有事の際の緊急連絡ということで国の国民保護の関係で国が直接緊急放送を流すというようなシステムになるので、市町村においてはその国のシステムを保全管理するということになる。町が直接施策としては行っていくような形ではないので入れていない。(危機管理課)
- 自治体が受信して、受信したものを防災行政無線や有線放送電話、緊急時 FM ラジオが自動起動してサイレンや音声放送で情報が住民へ伝達されるという仕組みになっているはずである。そこは宇美町でもそういうシステムの構築しているということで、ここは対応されているということだと思う。(会長)
- P. 18、指標の防災メールのところだが、これは学校の保護者や PTA にはできているのか。現時点では学校は学校で連絡網ができている。だから実際は防災関係・災害関係は保護者もほとんど伝わっている状況である。だからこの 1,500 という数はもっと数が多いのではないか。崖崩れがありましたなどという情報はもう学校がどんと 1 回で流して、もし学校と連携を取っていなかったら学校の連絡網とリンクさせたりいろいろな方法で目標値はすぐに上がると思う。(委員)
- ➔ これは指標に上がっている自主防災メールの数については宇美町単独の防災メールで学校との連携はない。一応町からの防災メールを見て学校独自でまた保護者に、登録している方にメールを送るというようなシステムになっている。今後町独自で LINE を導入するようにしているので、福岡市や須恵町も LINE を導入しているが、今メールではなく LINE を皆さん利用されているので LINE をごみの収集日や防災の LINE、福祉サービスなどいろいろなカテゴリがあってそれに登録すると、防災に登録すると防災の情報が入ってくるということで、新たなシステムとして LINE になればもっと情報の伝達が拡大されるということで、今後町独自で事業に取り組むことになっている。(事務局)
- だとするとこれが指標になっているのは少しおかしな感じだと思う。(会長)
- ➔ ただ、LINE については今から検討ということをやっているので、まだ具体的な中身は検討されていないので、そこはなかなか書きづらいところになっている。その他の業務についてもこの計画の中には盛り込まれていない。(事務局)
- 防災メールが学校に届いて学校から各登録者に伝わるのであれば、その 1,500 という数字自体があまり意味がない。実はもっと幅広く伝わっているという話である。(会長)
- ➔ 各学校の安心安全メールで幅広く伝わっている、その数までは把握は(していない)。(事務局)
- ➔ 委員からご指摘いただいたのは学校側が導入している安心安全メールで、例えば大雨により学校が休校しましたといった危険の学校に関するものを言っているようなシステムになる。
それは保護者の方が登録しているものになり、それと別だが宇美町の防災メールというものが例えば当然災害情報が発信されて全体に避難所がこういったものを開設しているといった情報であったり、こういった地域に土砂災害の警戒情報が出たということで、今現在そのシステムは別物で連携はしていない(事務局)
- そうするとやはり連携すればいいではないかという話である。連携すべきだという話とすれば、3,000 といった数字は軽くクリアできるというご指摘だと思う。ただ、そこはぜひ前向きにお考

えいただければと思うし、そうなると今度目標値ももう少し高く設定しないとおかしくなってくるということかと思う。(委員)

➔ そこについてはシステムのことや可能か不可能かということが当然あると思うので、貴重なご意見として担当課に伝えて前向きにお話しさせていただこうとは思っている。(事務局)

○ 全体的に災害に強いまちづくりというところもあると思うけれども、1、2、3といろいろなテーマがあった中でやはりいろいろと社会状況的なところや課題というところもたくさんあると思うが、やはり行政だけでは対応できないことがあるということも書いてある。

今後起こりうるのは、いろいろな情勢も関わってくることもあると思うので、なるべく地域の力というか地域の連携力というのは絶対に必要になってくる部分でもあると思うので、連携力の部分をどうにか入れられないかと考えてはいる。

その部分を、一文字、二文字でもいいが、地域全体で助け合う部分を入れていく。また、地域全体でその地域のことを考える部分を入れられたらと思って入れる場所を探しているが、なかなか見つからない。(委員)

○ P. 18、2-1の地域の防災力強化といったところではないか。

○ 地域の防災強化もあるが……ちょっと言語化ができていなかったのも、いろいろな災害や何に対応できる地域力を作っていけるような、もう少し伝えやすいような言葉にならないかと思っているが、自分では見つけれなかった。そういったものが入ればと思った。(委員)

○ というと、18 ページの 2-1 などだと防災意識の向上を目指しますといったことが出てきているが、例えば防災時に対応できるようにコミュニティを強化しますといった感じの話か。(会長)

○ どの問題に対してもコミュニティで解決していかないといけないところだと思うので、コミュニティの連携力を強めたいという感じだろうか。(委員)

○ 今のこの書きぶりだとコミュニティ運営協議会と連携しながら防災意識の向上を目指しますといった感じになっていてこれはこれでいいと思うが、むしろ地域とつながりを作っていざという時に対応できるように、コミュニティの中での人間関係の構築といったことを促進しますみたいなものが入るといいというご指摘か。(会長)

○ ちゃんと言葉にできていなくて申し訳ない。(委員)

○ ご意見として受けていただければと思う。(会長)

○ P. 20、地域の防犯カメラが令和 8 年は 40 箇所を目指すということで、防犯にカメラが果たす役割は非常に大きいところがあるので私はそこは否定はしないが、あまり町中カメラだらけになるというのは、常に監視されているようで心理的に圧迫感を感じるようなところもある。

プライバシーの問題もあるだろうから、ここで言われている地域の防犯カメラの設置についてどういう基準で具体的にどういう所に設置を考えているのか。指標の 40 箇所というのはどういう基準で選ばれているのかというのを教えていただきたい。(委員)

各自治会のほうで、地域の安全安心ということで防犯パトロールをしたりそれぞれの活動をしている。そういった中で地域のほうから犯罪抑止という目的で防犯カメラを設置したいと、役員会で設置しようと思ったということで、町のほうから補助などがないかというようなお話があ

る。町としては積極的にあらゆるところに防犯カメラを付けるということではなく、そういった地域のニーズに対応して、要綱なりを整備して、地域から要望が出ればそれに対して幾らかの補助を町として出したいというところで、そういった整備を行っていききたい。(危機管理課)

- そうしたら地域の要望もあってこの 40 箇所という数字がでたわけで、この 40 箇所に全部付いたら地域の要望はほとんどカバーできているということになるのか。(委員)

➔ あくまでも今現在要望が上がってきているというところであり、今後また要望があつたりといったことも考えられるので、そういったところを見越したうえでの 40 機程度かということになる。(危機管理課)

- 消費者生活センターの年間相談件数のところ、現状が 200 件で令和 8 年も 200 件で同じ数字だが、そもそも年間相談件数に目標値をなぜ設けたのか。相談件数は少なかったら少ないでいいのではないか。

問題なのは、トラブルを抱えているけどそういった消費者生活センターまでたどり着けないことのほうが問題であって、相談件数が少ないということは、逆の捉え方に変えたら町民の人がそんなに困っていないということの一つの表れにもなるのではないか。

生活センターの活用ということで考えたら、もう少し別の指標が考えられないか。(委員)

➔ ご意見は当然理解できる。そういった相談がなければ平和で安心して生活できるというような形になると思うが、担当としては今いろいろな消費に関するトラブルなりお悩みについてどこに相談していいかや、困った方を何とか相談に結び付けるというところで、志免町にセンターの事務所があるが宇美町にも来ていただいて、宇美町の方は宇美町で相談に乗っていただくといったことで、相談員に関しても宇美町は 1 人しかおらずキャパもある。このセンターを 5 町で運営しているので 5 町の方も相談に来られるというキャパもあるので、相談に関しては現状維持し相談はきちんと受け付けるという意味合いの目標件数である。数字だけ見たら実際相談は少ないに越したことはないと思うが、きちっとそういった相談は受け付けるというような意味合いを含めてこういった表記をさせていただいている。(危機管理課)

- その指標設定の仕方の考え方にやはり少し問題があって、まずこれは児童虐待と同じで件数が多いことが良いと思う。というのは、抱えている人が圧倒的に多くて本人が気付いていないケースもたくさんあり、むしろ大事なことは本人が気が付かなくても取りあえず気付いてあげる人がいてつなげるということが大事で、それをやってきていないから今 200 件とあるが潜在的にはもっと多い。その仕組みを作っていくということが大事になってくる。

さらにその目標値をどこに設定するかという時に、やはり同規模の自治体などにおける平均的な年間相談件数などを比較して、その中で大体この人口規模であればこのくらい、例えばかなり頑張っているところだと 350 件と出てきているということであれば、そういったことを念頭に置きながらそこに追いつけるように、もちろん相談に来ていただけるようにいろいろな PR をするということもあるが、それにプラスアルファ、さっき言った地域のつながりの中で地域の消費者生活のネットワークがあるが、ああいったネットワークの強化を通じて埋もれている人たちがきちんとつながっていけるような仕組みを作っていくという、そこが大事である。相談件数それ自体が大事というよりも、そのつながっていない人たちをつなげていくための仕組みをどう作っていくのかという、そこがやはり大事である。(会長)

- ➔ 今の委員長のご指摘も含め、担当課と指標については再度協議をさせていただく。(事務局)
- 今やっていることが中心で書かれていて、知りたいことはこれから4年間で何をどうするかということである。繰り返しになるがあるべき姿というものを描いたうえで、それと現状とのギャップが問題である。この問題を解消するために何をどうするのか。今の例で言えば、消費者の相談が200件である。しかしこれは本来ならばこのくらいあってもおかしくない。この件数がなぜ埋まっていないのかを分析し、これは恐らく相談できずに埋もれているとかだまされているが地域のつながりがないからそれに気付いてあげられていない。あるいは気付いていても声を掛けられないなど、いろいろなことがあり得ると思うので、このギャップを埋めるための方法を考えて打っていく、これが施策である。そこがやはりどうしてもこれまでの行政の考え方の当たり前のものとして、今やっていることをベースにして関係しそうな目標のところに当てはめていくというようになってしまっている部分が大いと思う。
- そうではなくあるべき姿というものを具体化し、そこと現状とのギャップを把握し、そのギャップや問題点を解消するために何が必要なのか。今の体制で十分なのか。やり方を変えなければいけないのではないかという形で事務事業の見直しにまでつなげていただくということが、この総合計画の目的になる。そういったことがきちんとできれば、4年間でこれだけのことをやればそのギャップが埋まるはずである。そういうことをぜひ念頭に置きながら組み立て直しをいま一度していただきたい。
- 例えば消防団活動の充実ということがあがるが、愛媛県の松山などは消防団員を広げていくことで有名だが、ああいったところで何をどうやってやっているのかということを知りながら、そこと今宇美町でやっていることに何がどう違っているのかということを知りながら、それを改めて検討いただく。そうするとやはり具体的な中身が出てくるのではないかと。そして、検討を進めますという言葉があるが、検討を進めるのは計画にならないので、導入を進めていくなど、そこはやはり計画なのでそのように書いていただかないと、検討しますだと何も検証ができないということになるので、その辺りはぜひお願いしたい。(会長)
- 個別の事業計画というのはこの審議の中に入っていないと思うが、ただこれをやりますよという重点施策に関しては、この審議会で挙げられるのだろうか。そこを挙げたうえで検証する機会というのはあるのかどうか。(委員)
- ➔ こちらについて今現在この第7次の総合計画と前期実践計画策定にあたり、重点プロジェクトを各課に政策を挙げていただいている。9月の来週の期限になっているので、その内容についても10月以降の審議会においてきちんとご説明をさせていただきたいと思っている。(事務局)
- 今日言い切れなかったことはたくさんあるが、それを文章にして後半戦と合わせて指摘してもいいか。(委員)
- それはこの審議会のメンバーの合意があればよいと思う。ぜひそれはやっていただきたい。(会長)
- 確認だが、次週できない分についてはとても大事な内容が入っている。極端なことを言えば回

数を増やしてでもいいから残りの4、5、6もこのような形でやったほうがいいのではないかと。

- 特にまちの魅力向上というものは一番の中核に当たる部分だと思う。これが土台としていろいろな教育や福祉につながっていくと思うので、これについてはやはり一度集まって議論すべきだと思った。(委員)
- 次回は目標4、5、6を本当はリアルでやるはずだったが、これが文面での審議ということでお願いしたいということだと思うが、それに対して基本目標6-1などがみそになってくるからというお話だった。

一応スケジュール的になかなか苦しい部分があるということなので、こうさせていただけないか。取りあえず6-1に関しては原案どおり文面での審議にさせていただく。ただし、一人ひとりからの意見をきちんと事務局から尋ねていただいて、存分にご意見を賜ってそれをきちんと文章化していただいてみんなで共有できるようにする。これが条件である。そのうえで、基本目標6は確かにこれは肝というか中心になっていくだろうと思うが、場合によっては10月6日や24日などの冒頭前半くらいでここはもう1回議論させていただくというような、その必要性があれば、そういう柔軟な対処ということをやらせていただく方向でよいか。(会長)

どちらにしろ9月以降の審議会でも当然内容等についてはいろいろご意見をお伺いする予定にしている。しかしながら今回、一番最初に見ていただいたので大幅な修正や大きく変わるような意見などがあれば、やはりスケジュール的にも早くご審議いただきたいということでお伝えをしている。また10月以降でもその辺りについてはご意見を承る場はきちんとあるので、よろしくお願ひしたい。(事務局)

- そこはあくまで形だけ作ればいいという話ではないので、柔軟に対応させていただければと思っている。確認だが、個別の審議会の時以外の場、言い残したことも含めてそれを文章化して事務局に提出していただければ、それをメンバー全員に共有していただく。そしてそれをもってこの場で意見を言ったことと同等として扱っていくという扱いにさせていただく。そのうえで次回は文面での審議だが、プラスアルファで議論をする必要があれば当然それは次の時に審議を回していくということで対応させていただきたい。

町の将来像はこれはこれで皆さん考えていただいたのでこれでいいが、このまちがいいという、「が」の意味が出ていないということは考えていただきたい。まちの将来像と基本目標に対してコンセプトのようなものがもう少しないと、横にして指すようなものがほしい。例えば冒頭で挙げたが同じような町の総合計画はどのようになっているかということ、ここは生かす、育む、支え合うという、これをただ横文字の表にして、これはこのまちの将来像とは別個に文章の中でこれが基本概念ですと書いておいて、この発想で個別の各基本目標を横にして指していくような、そこを横にして指していくと多分どこの町を見ても同じような総合計画になっているというようにはならないのではないかと。そのコンセプトがやや欠けているところは定番に見えてしまう部分があるのかと思うので、そこをお気を付けいただきたい。

そして3点目に、基本目標はそれぞれこれでいいとしてこれが具現化された状態とはいったいどういう状態なのかというのをもう少し具体的に幾つかさらに細かく柱でまとめていただき、それを各柱ごとに今現在の宇美町の状況とのギャップを意識したうえで施策を考えていただきたい。今現在の作りはやや施策の柱が足りない気もする。足りないというのは先ほどから出てきている市民ニーズ、町民ニーズをいろいろ聞いたはずなのだけれどもそれが十分また踏まえられて

おらず、どちらかというは今行政がやっていることをベースに考えて施策が出来上がっているのではないかという感じがまだあるので、そこをいま一度検討していただきたい。そして各施策の文章に関してはもう少しコンセプト的な形で、これを横串に刺して宇美町らしさみたいなものにじみ出るような形にしていきたい。(会長)

4. 閉会あいさつ

- ➡ 嶋田会長においては議事進行誠に礼申しあげる。委員の皆様方においても活発な意見をたまわり、礼申しあげる。会議の始めに申しあげたとおり、次回6日については台風の影響により書面開催とさせていただく。基本目標4から6についてのご意見等は6日以降にこちらから電話等で連絡してお伺いをさせていただくので、よろしく願いたい。また内容等でご不明な点については、まちづくり課までお問い合わせをいただければと思っている。本日は長時間にわたるご審議礼申しあげる。

以上